

# うたごえ新聞

5 / 15  
(1989年)  
NO.1255

THE SINGING  
VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
うたごえ新聞社  
〒169 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎03(209)0638 FAX 03(200)0105  
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行  
1部120円(〒25円)・月480円(〒120円)

## 89日本の祭典、14年ぶり京都で

(11月23日～26日)

### 17

#### 山本忠生

(「忠やん」またはの名を「イジー山本」)  
京都の専従第一号。ガリキリ(今でいうニュースの原稿書き)から出発し、その後、アコーディオン、ピアノ、指揮、作詞、作曲、事業、企画、制作とオールマイティ。現在は、うたい手としても売出し中の京都音楽センター社長。

#### 東宗謙

(「村長」またはの名を「グ」)  
「イジー山本」の名が示すとおり、何でも簡単に引き受け、安易にこなしてしまうのが、弱点でもあり長所でもある。

#### 松木郁子

大きなひげの顔が特徴でクレイジーの名のとおり、仕事ぶりも発想も人並はずれ。クレイジーなあまり、まわりの人があつまわされることもよくある。



▲日本のうたごえ全国協議会総会の最後を、京都のうたごえは演奏でしめくくった。

### 人

#### ディ松木

京都府下二十八万世帯を組織する京都生活協同組合担当また、日本音楽家ユニオンと協力して行なっている「コンサート季節風」の担当もしている。本人はお金にならないと落ち込む時もあるが、将来に向けて非常な夢のある(将来お金になるであろう)仕事をしている。

### の

#### 安藤正彦

(「コルゲン」または「スパーライト安藤」)  
京都ひまわり合唱団事務局長。将来、指揮者をめざす元・保安さん。

### 専

#### 中条陽子

(「キノコ」または「パンチ中条」)  
太鼓センター専従。誰からも愛される人柄。専従にならたのは「どうしよう、どうしよう」を連発していたが、今やカンク十分。

### 従

#### 山口泰広

(「ロボコン」または「コンピューター山口」)  
太鼓センター会計。連日連夜コンピューターとカクドウしている彼は、欲求不満のほけ口をひたすら食べることに求めている。おかげで、おなかになたまった矛盾のたまり(脂肪のかたまり)は全国でもトップクラス。

### 者

#### 池田和世(エウ)

洛北青年合唱団臨時専従。  
彼女も三月末までは保母だった。給料が安くなると専従を快意した。うたごえを恋人にしている彼女には、結婚もまた目には見えない様子……

### 横顔

#### 時田裕二

(「時やん」または「ライト時田」)  
この原稿を書いた本人で、京都音楽センター企画・事業部担当。最近「ライト時田」というよりも、「ハイライト」「スーパーライト」の出現で「元祖ライト」と呼ばれることが多い。本人はそんなに軽いとは思っていないが、得意ワザは、あやまること。失敗は多々あるが、他人の失敗まで責任を問われることが多い。

### 京都専従クイズ

この顔は誰だ!?

上の①～⑥の顔の主な、次の氏名の中から選んで下さい。全問正解者は、抽選で五名に、日本のうたごえ祭典のチケットを贈呈します。(京都の人は除く)

① 山本忠生 ② 東宗謙 ③ 時田裕二 ④ 松木郁子 ⑤ 清水直樹 ⑥ 池田和世

応募は、〒400 京都市中京区西ノ京冷泉町118-3 京都音楽センター内、祭典事務局「専従クイズ」係。☎075-811-8634、822-3437。FAX 075-822-3439。

三月までは保母さん。日本のうたごえ祭典のアルバイトとして事務局入り。全国担当でがんばります。みなさん、よろしく。

寺尾澄子(やだもん)

消費税のおかげで、財布の中に一円玉がたまるようになった。ついつい自分で数えるのをめんどろがって、おつりをもちろため。(お店のみなさんごめんなさい)

☆ ☆ ☆

そこで一案、その一円玉たちを大きなビンに貯めることにした。わずか一ヶ月でかなりの量である。

昔では一円玉が足りないという状況が起きていたが一円玉そのものの需要の増大とともに私と同じことを考える人も意外と多いのではないだろうか。

☆ ☆ ☆

たたらうメーデーの輝かしい歴史と伝統をひきついで「辰巳の森」広場での大集会には二十万人が結果し、途中、降り出した雨ものともせず、大成功。文化行事の最後をしめくった東京のうたごえ祭典は、新しくつくられた「フット・ナウ」をはじめメーデー歌を合唱し集会を大きく盛り上げた。

☆ ☆ ☆

式典の最後再び壇上へ、国鉄の鶴さん、医療の山本さんの指揮で「世界をつなげ花の輪に」を全員合唱。

☆ ☆ ☆

時を同じくして、うたごえ新聞社に新人がはいった。

埼玉合唱団員で、全国創作センター会員でもありこちらへ来るまでは、保母をしていた林和恵さんである。

☆ ☆ ☆

新たな飛躍、五十周年めざしてとにがんばりましよう。

(佳)

## 90年代、うたごえ50周年への第一歩

新たな飛躍、五十周年めざしてとにがんばりましよう。(佳)

吉井 勝 (「与太郎」または「ハイライト吉井」)  
京都うたごえ協議会事務局長で、日本のうたごえ祭典組織委員長。この実務一本やりのイメージの肩書きを持ちながらも、実務は大の苦手。本人は「第二の梅原司平」を夢見ている。

栗田紀代  
京都音楽センター総務部長「京都の金庫番」。「この人なしでは、センターのお金は一円たりとも動かない!」

中島真  
太鼓センター職員。専従最年少。愛車ステレオに太鼓をつみ込んで京都中を走り回る彼は、いつもボーカルフエイス。ニコリ笑うのは「……」の時だけ?

大上志伸(トット)  
太鼓センターの一番新しい専従。今年三月までは保母。ピアノも弾くし、教えることもする。

竹内正彦  
日本のうたごえ祭典事務局。根っからのうたごえ人間で、合唱団「銀河」団長の他サークルやうたごえ酒場でも中心的な役割を果たしていると言いつつ、さぞかっこいい男性と思われるが、外見はドラえもんそのものともいわれる。独身貴族。

時田裕二  
この原稿を書いた本人で、京都音楽センター企画・事業部担当。最近「ライト時田」というよりも、「ハイライト」「スーパーライト」の出現で「元祖ライト」と呼ばれることが多い。本人はそんなに軽いとは思っていないが、得意ワザは、あやまること。失敗は多々あるが、他人の失敗まで責任を問われることが多い。